

平成29年度
西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略
事業評価報告書

評価対象：平成26年度 地域活性化・地域住民生活等
緊急支援交付金（地域消費喚起・生活支援型）事業
平成26年度 地域活性化・地域住民生活等
緊急支援交付金（地方創生先行型）事業
平成27年度 地域少子化対策重点推進交付金事業
平成27・28年度 地方創生加速化交付金事業
平成28年度 地方創生推進交付金事業

平成30年3月
西郷村地方創生有識者会議

はじめに

1. 地方創生有識者会議について

本村は、平成 28 年 3 月に「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。

この総合戦略の策定において、行政のみならず、住民、NPO、関係団体や民間事業者等の参加・協力が重要であることから、住民をはじめ、産業界・県や国などの関係行政機関・大学などの教育機関・金融機関・労働団体・新聞社などのメディア（産官学金労言）などで構成する組織でその方向性や具体案について審議・検討し、広く関係者の意見が反映されるよう「西郷村地方創生有識者会議」が設置されました。

また、計画策定後もその効果検証に際して、その妥当性・客観性を担保するため、行政の中だけで行うのではなく、外部有識者の参画を得ることが重要とされていることから、本会議において審議・検討するものとししました。

2. 西郷村地方創生有識者会議構成

分野	所属	役職	氏名	備考
産 業	西郷村商工会/西郷村建設業組合	会長 / 組合長	大高 紀元	
	白河オリンパス(株)	業 務 部 長	小檜山 淳一	
	信越半導体(株)	主 幹	桑名 義雄	
	東陽電気工事(株)	代表取締役社長	石川 格子	
	社会福祉法人 西郷村社会福祉協議会 みずほ保育園	園 長	森 明 美	
	五峰荘	女 将	有賀 圭子	
官 界	独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立那須甲子青少年自然の家	次 長	八巻 達仁	
大 学	福島大学	名 誉 教 授	清水 修二	座 長
金 融 機 関	東邦銀行 新白河支店	支 店 長	星 邦 弘	
	白河信用金庫 西郷支店	支 店 長	大高 健造	
労 働 団 体	日本労働組合総連合会 福島県連合会 白河地区連合会	議 長 代 理	畠山 史信	
言 論 機 関	福島民友新聞社 白河支社	支 社 長	飯沢 賢一	
	福島民報社 白河支社	支 社 長	古川 雄二	
住 民 代 表	西郷村行政区長会	会 長	花安 紀夫	
	西郷アグリネットワーク	会 長	尾股 進悟	
	西郷村婦人会	会 長	遠藤 玉美	
	西郷村社会教育委員	副 委 員 長	橋場 八代子	
	西郷村くらしの会	会 長	大越 則恵	

総 評

福島県は7年前、地震・津波・原発事故という、かつて経験したことのない三重災害に見舞われ、とくに原発事故のもたらした被害は広範かつ長期にわたる傷跡を被災地域に刻みつけることになった。原発の所在する双葉郡からは相当遠隔の地である西郷村においても、放射性物質の除去に膨大な費用を要する事態になった。しかし幸いにして諸条件に恵まれ、県内では唯一、災害後に人口の増加を記録することができた。県境に位置する一村でありながら、福島県の希望を一身に担う立場にあると自負しても許されるだろう。

とはいえ、村の「人口ビジョン」ならびに「総合戦略」は、趨勢としての人口減少と高齢化の進展は当地においても免れがたいこと、そしてそれを可能なかぎり食い止めるために体系的な施策が必要であることを述べている。総合戦略で掲げた基本目標を端的に表現すれば、「人と人が“出会い”」「安定した職場で“働き”」「地元を“愛し”ながら生涯をすごせる」地域づくりをすることである。これらを数値で表現すれば第1目標は「出生数の増加」、第2目標は「村内就業者数の増加」、第3目標は「転入者の増加」という、きわめて分かりやすいものになり、総合戦略では各々5年後の現実的な数値目標として示している。さらにこれら3つの基本目標の中に具体的な施策をいくつか組み込み、ここでもまた個々に数値目標を掲げる形になっている。

なお、総合戦略では「基本的な視点」の1つとして、「総合戦略に掲げる取組は、その実効性、継続性を確保するとともに、西郷村ならではの独自性を追求します」という文言を掲げていることに注意しておきたい。地域の実情に即した、一過性で終わらない事業を目指すという趣旨であると受け止められる。

さて、今回の事業評価であるが、評価の対象は平成26年度から28年度にかけて国の交付金を受け実施された「まち・ひと・しごと創生総合戦略事業」である。最初に私たち有識者会議は、総合戦略事業全体にかかわる基本データをおさえるところからスタートした。総合戦略の個別施策ごとの数値目標の達成状況を把握することによって、いわば中間的チェックを行ったことになる。そのうえで、評価対象となった6事業の内容と成果につき、役場から提示された資料にもとづいて説明を受け、質疑応答を行った。追加の必要な資料についてもその場で確認した。

その後委員は、資料を持ち帰って各自の判断で評価（A～D）を行うとともに意見を記述して提出し、第2回目の委員会でそれらを取りまとめた資料をもとに意見交換をした。意見交換の末に評価の変更を行った委員もある。役場側が提案した「今後の方向性」の記述に対しても意見や注文が出された。

以上が委員会における評価の方法で、個々の事業の評価結果は以下に掲げるとおりである。評価A～Dについては「平均」して一本化することはしていない。意見の分かれ方を示すことにも意味があると思われるからである。全体としての評価、および意見交換の中で指摘があったいくつかの論点を記しておきたい。

- (1) 各事業の評価結果を見ると、「IV拠点づくりプロジェクト」を除いて評価が比較的分散している。立場によって、あるいは見方によって評価に差が出たといえる。
- (2) 「何を評価するのか」という点において、委員の間で判断の尺度が必ずしも一致していな

いことがその一因であろうと考える。ある人は数値で示された「実績」を重視し、他の人はそれだけでなく事業の「意義」にも重点を置いて評価している、といった差異である。この点は無理に一致させることはしなかった。

- (3) 単年度の事業を、その年度の成果指標で評価するという方法が妥当であるかどうかについて、疑問が提起された。年度の途中から取り組み始める事業もあるし、そもそも事業の成果をあまりに短期的に追求することにも問題がある。翌年度の実績も加味して評価する委員もあり、その意味で「時間軸」の取り方も、評価が分かれる一因だったといえよう。
- (4) 評価指標（KPI）の設定が必ずしも適切でないと思われる事業があった。その数字が果たして当該事業の成果を示すものかどうか疑わしいケース、あるいは実際に指標を設定することが技術的に困難なケースがある。今後の事業評価に当たっては改善が検討されてしかるべきだろう。

全体的には事業の意義と実績を積極的に評価する意見が多かった。ただ、評価指標上で実績があがっていたとしても、それが役場の当該事業の成果であるのか、単に外在的な要因の変化の結果にすぎないのか、区別することがむずかしい場合もある。またこの間、除染関係に多くのエネルギーを役場が割かざるをえなかった事情も、評価に当たっては考慮すべきだとの意見もあった。行政評価の方法の改善も含めて、今後の取組に期待したい。

平成30年3月8日

西郷村地方創生有識者会議

座長	清水	修二
委員	大高	紀元
〃	小檜山	淳一
〃	桑名	義雄
〃	石川	格子
〃	森	明美
〃	有賀	圭子
〃	八巻	達仁
〃	星	邦弘
〃	大高	建造
〃	畠山	史信
〃	飯沢	賢一
〃	古川	雄二
〃	花安	紀夫
〃	尾股	進悟
〃	遠藤	玉美
〃	橋場	八代子
〃	大越	則恵

○会議の開催経過

会 議	日時・場所	内 容
第 1 回会議	平成 29 年 12 月 22 日（金） 西郷村文化センター	委嘱状の交付、座長選出 西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略の 効果検証について 地方創生関連事業の効果検証について （7 事業：内 1 事業経過報告）
第 2 回会議	平成 30 年 2 月 8 日（木） 西郷村商工会館	地方創生関連事業の効果検証の取りまとめ について（6 事業）

○評価対象とした事業

評価対象とした事業は、下記の交付金を活用した事業に対して行いました。事業名等については、別表「地方創生関連事業一覧」のとおりです。

○評価の区分

評価は、次に示す 4 区分によるものとし、意見や提言等を付すものとししました。また、現時点でどうしても評価が難しいものは評価不能とししました。

A：地方創生に非常に効果的であった

指標が目標値を上回った場合など。

B：地方創生に相当程度効果があった

目標値を相当程度（7 割）達成した場合など。

C：地方創生に効果があった

目標値を上回らなかったが、本事業開始前よりも改善したなどの場合。

D：地方創生に対して効果がなかった

実績値が本事業開始前の数値よりも悪化しているなどの場合。

○評価の手順

手順 1 事務局・事業担当課による事業概要の説明及び質疑応答（第 1 回会議）

↓

手順 2 各委員の事業評価（12 月末～1 月末まで各委員で評価）

↓

手順 3 各委員の評価発表及び評価の取りまとめ（第 2 回会議）

地方創生関連事業一覧

番号	事業名	総合戦略における分類	交付金名称
1	消費喚起プレミアム商品券 発行事業	—	平成 26 年度 地域活性化・地域住民生活 等緊急支援交付金（地域消 費喚起・生活支援型）事業
2	小さな拠点形成推進におけ る地域公共交通網の構築事 業	にしごうを‘愛し’生涯安心 して幸せに暮らせる村をつ くる	平成 26 年度 地域活性化・地域住民生活 等緊急支援交付金（地方創 生先行型）事業
3	サイクルツーリズム推進事 業～観光・健康・復興に輪行 で行こう～	にしごうを‘愛し’生涯安心 して幸せに暮らせる村をつ くる	平成 27 年度 地方創生加速化交付金事業
4	生涯安心して幸せに暮らせ るための拠点づくりプロジ ェクト	にしごうを‘愛し’生涯安心 して幸せに暮らせる村をつ くる	平成 28 年度 地方創生加速化交付金事業
5	産業サポート白河を核とし たローカルイノベーション 創造事業	にしごうで‘働き’安心して 生活できる村をつくる	平成 28 年度 地方創生推進交付金事業
6	企業間お見合い事業	にしごうで‘出会い’安心し て産み・育てる村をつくる	平成 27 年度 地域少子化対策重点推進交 付金事業

I 消費喚起プレミアム商品券発行事業

1. 事業概要

村内の経済の底上げと村民の消費喚起を図るため、村がプレミアム商品券9,360万円を発行しました。また、村内全世帯に対して商品券の使用目的等のアンケートを行い、アンケート回答者に対して商品券の優先販売を行いました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
アンケートの実施	1回	1回	100%

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
7	5	5	0	0

4. 有識者からの意見

- プレミアム商品券の発行により、消費喚起を図ることができたと感じる。しかし、購入先が何箇所かあると良かったのではと感じた。
- アンケートの内容は今後の活動に有効的な項目が網羅されており良好である。また、本件は消費者の購入意欲と行動力向上に繋がる事業と思われる。
- 地域活性化に繋がると思います。(利用出来る店舗も前回よりも増やすと更なる利用者増になると思われる。)
- 今後は、アンケートを基により効果的な取組となるよう検討してほしい。
- アンケート回答率13.19%と低く、意見や問題点がヒアリングできているかという懸念があります。商品券そのものはプレミアム率も高く、購入・利用者は満足していることを確認できました。食品スーパー・総合スーパーの利用が高いのは想定内でしょうか。
- 数字上100%であったが、利用者の声では内容がよくわからずしかも終盤頃になってから知った住民もいた様で残念に思った。
- 大きい店よりも小さい店で使われるように、条件をつけて販売すればもっと良いのではと思いました。どこで使われたのかも知りたい。
- アンケートの回答率が高まれば、次回以降の事業につながり、活かせる部分が多々あるのではないかと感じました。

- 消費する場所（商品券を使う場所）が地元（特に西郷村の経営する店）の経営する店で使用しているようには見受けられない。地元密着型ではない。日本の経済の底上げには貢献しているかもしれないが…。
- アンケート調査結果を村としてどう評価されているのかも重要でありますので、お聞きできればと思います。商品券の入手がきっかけとなった商品等の購入割合が大きいほど、消費喚起が促されたと評価すべきであると思います。
- アンケート調査はおこなったものの、調査結果の分析がなされていないではありませんか。プレミアム分の財源は税金であり、そのうえ事業委託金と事務費で 350 万円を費やしています。合計 2,000 万円の支出が「新たな」需要を生み出したかどうか、村なりの検証があっただけでしかなさそうだと考えます。
- 多くの村民が購入できればよいと思った。（私も購入できない1人でした。）白河市と協力して、市内、村内で物品を購入できれば良いと言う声を聞いた。
- 村民の消費喚起を図る点においては、そこそこの効果があったと思われます。村内経済の底上げという点においては、小規模の商店（小売店）におけるメリットについては、いまいちでなかったらどうか。小規模店における別の対策があっても良いか。現在はどうしても大型店に客足は向いてしまう傾向にある。以上より商工会との密なる打合せは大変よかったと思います。

【今後の方向性】

本事業は、消費税引き上げについて議論が行われる中、「地方への好循環拡大に向けた緊急経済対策」に基づき実施された事業として 96%の自治体の実施したもので、本村も国の補助を受け実施いたしました。

本事業は、地域内の消費喚起と生活支援を目的とする点において、商品券の換金率が 99.8%であることから一定の効果があつたと考えます。一方で、本プレミアム商品券による消費喚起による地元商店街への波及効果については工夫の余地があつたのではと課題が残りました。

本事業については平成 27 年度のみ単年度事業のため、事業を完了いたします。

Ⅱ 小さな拠点形成推進における公共交通網の構築事業

1. 事業概要

村内の各集落が有機的に結びつく交通ネットワークを形成するため調査を行い、「小さな拠点づくりのあり方・方向性」について調査研究を行い、併せて、交通事業者等の関係者により組織された地域公共交通協議会を立ち上げました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
交通事業者等関係者調整会議の開催	3回	1回	33%
地域住民懇談会の開催	1回	0回	0%
公共交通利用促進のための広報活動実施回数	3回	1回	33%
相談窓口への相談件数	24件	7件	29%

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
1	5	10	1	0

4. 有識者からの意見

- 交通網の構築事業は大変よい内容と思う。今後継続されることで、外出から遠ざかる高齢者、弱者の方にとっては新しい出会いの場を広げ健康で生き甲斐になります。
- 平成27年度に予定していた住民懇談会は28年度に持ち越して実施したわけですね。29年度は調整会議が一度しか開かれていませんが、年度内の「再編実施計画」策定は大丈夫でしょうか。
- 今後、地域住民懇談会を開催していただきたい。（意見を聞くことで、ニーズを把握する。）
- 目標設定に対して、実績がやや少ないように感じます。
- 地域住民の要望は重要なファクターになると思われる。平成28年度には5回やられているが、平成29年度は0回であった。PDCAを回す事は次期戦略に必要である。
- 計画はしたが実施されていない事業。住民の声が聞こえないのではないかと。集落座談会等が必要だと思うがどうか？
- リスト「資料2」から事業開始前の数値を確認できませんが、本検討のための組織化がされたことを効果があったと考えました。
- 実態（現状）の把握がまだ不十分であると思います。
- お年寄りが増加し、生活スタイルが時代の流れとともに変化する中で、とても重要な取組の1つであると思う。

- K P I の実現というよりも、より良い地域公共交通の実現に向けて取り組んでほしい。
- これからの公共交通のあり方の方向性は、とてもよいと思う。でも、実施した時、利用者の利便はどうか？
- 目標に達していない。地域住民のニーズ（学生、高齢者）を知るためには住民懇談会、広報活動が重要なはずです。
- 利用者玄関から目的地へ、また目的地から玄関へという小回りのきくサービスが必要か（特に交通弱者に対して）。行政他自治体は無論、他団体（大型店・病院等）との連携が必要か。各行政区には、車の運転ができる元気な年配者が多いと思われる。そのような人たちにボランティアとして車（バン）等を運転していただく、その時は車と燃料は役場より提供。

【今後の方向性】

本事業は、村内の各集落が有機的に結びつく交通ネットワークの形成や「小さな拠点」づくりのあり方・方向性を検討する基礎調査であり、「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標“にしごうを愛し生涯安心して幸せに暮らせる村をつくる”に関連する事業として実施いたしました。

本事業で行いました住民アンケート調査やバス利用調査等の検討結果について、「西郷村地域公共交通網形成計画」や「生涯安心して暮らせるための拠点づくりプロジェクト計画」へ活用し、更なる住民ニーズの把握を行いつつ、公共交通ネットワークの形成やコンパクトシティの形成など、目的に合わせた計画づくりや計画実現に向けた事業を展開していきます。

Ⅲ サイクルツーリズム推進事業～観光・健康・復興に輪行で行こう～

1. 事業概要

白河市、那須町、西郷村の広域連携事業として、サイクリストのための環境整備と観光業を中心とする第三次産業の市場規模の拡大を図るため、国内・国外に向けて情報発信や展示会への出展などプロモーション活動を実施しました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
新白河駅年間利用者数	1,071千人	1,095千人	102%
観光客入込数	351,000人	326,772人	93%

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
4	7	6	0	0

4. 有識者からの意見

- インバウンド観光の推進、さらに自転車人口を増加させ、自転車だけに頼らない交通環境の形成及び住民の体力の向上等を図るための良い取り組みだが、サイクルピットの設置場所など広く住民に周知する必要があると感じた。
- 国内はもとより台湾・タイ・香港 etc. のインバウンド誘客は効果大である。また、村民が他地区へ向かう事による交流は西郷村の情報発信に有効である。
- サイクルピットの設置などサイクリストを呼び入れる環境整備が進んでいることを確認できました。事業名にある「サイクル」に関する KPI が見えないと思いました。
- 台湾の人は来てくれたのでしょうか。サイクルピットを利用した人はいたのでしょうか。
- 全国的に、サイクル人口が増えている。今後も更なる推進の継続を期待します。健康推進や観光 PR になると思う。
- KPI のとり方が不適切だったと思われます。設置したサイクルピットがどれだけ活用されたのか、どのくらいの人が地域内でサイクリングを楽しんだのかが本来あるべき KPI でしょう。事業実施年度（H28）に限定せずその後の状況も検証しないと効果を評価することができません。
- サイクルピットの利用者数等、本事業によると思われる交流人口増加等の把握ができていないため、単純に観光客入込数だけでは判断できないのではないかと思います。

- 他団体の事業とも重なり、効果が出ている部分はあると思います。しかし、実際効果があるのかという検証方法やプロモーションの仕方については再検討する必要があると思います。
- 限りなく評価はDに近いC。指標は的はずれ。旅館の利用人数とかそのときサイクリングを目的にして利用したなどの数値が必要。
- 新幹線駅、インターチェンジの村が故に村当局が、音頭をとって他・行政自治体・他団体（商工会議所・商工会等）に年2回くらいの観光についてのテーマを持ち会議を開催すべき。

【今後の方向性】

本事業は、サイクルツーリズムの推進をとおして国内外に向けたプロモーション活動や環境整備を行ない、交流人口の増加や観光業を中心とする第3次産業の市場拡大を図ることを目的に、「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標“にしごうを愛し生涯安心して幸せに暮らせる村をつくる”に関連する事業として実施いたしました。

サイクルツーリズムの推進をすべく、3市町村共同での事業展開によって従来の県域ごとの事業展開からの脱却を試み、海外へのPR活動や環境整備を行ないましたが、今後は、イベントに対する参加者数などサイクルツーリズム推進の効果を数値化できるような事業を行っていきます。

IV 生涯安心して暮らせるための拠点づくりプロジェクト

1. 事業概要

役場周辺エリアにおいて生活利便施設やにぎわい施設の集約、防災拠点としての庁舎機能の強化、子育て支援機能や高齢者支援機能の充実、公共交通ネットワークの形成等を実現するため、「生涯安心して暮らせるための拠点づくりプロジェクト」計画を策定しました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
多目的直売所来客者数	4,000人/年	6,015人/年	150%
多目的直売所売上	500万/年	515万/年	103%
多目的直売所における販売者数	20人/年	63人/年	315%
村への転入者数	25人増/年	10人増/年	40%

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
11	6	0	0	0

4. 有識者からの意見

- 村にとっては最も大事な事業と思います。一番望んでいます。
- アンケート調査やワークショップにより、村民ニーズに適したプロジェクト計画が策定されたと感じた。全計画の早期実現を願う。
- 農産物直売所まるごと西郷館建設はあらゆる視点から期待が大である。西郷村創生事業の中核と位置付けされる事業である。
- 「拠点づくりプロジェクト」計画に従い推進されるようお願いします。
- 多目的直売所に納品（出品）している人の数が最終目標値を上回っている点に注目したいと思います。「村への転入者」については実際に転入した人を対象に調べないと効果は測れないでしょう。
- 全ての拠点づくりは大切なことで、これは行政が指導すべし。後ほどの折を見てよりも始めから、若者（農業・商業・婦人たち）の考え方やその運営を任せるべき。しかし、監督責任を持ち、口出しはしない。
- 人が集まる拠点づくりに適していると思う。買う・食べるは重要。
- 継続して、村民ニーズを把握する為に、アンケート調査を行う必要があると考える。
- 地域の産業や取組を活かして集客には繋がっていますが、転入者の増加にもっと繋げるためにアピールはさらに必要となりそうです。

○プロジェクトの順調な進行を期待しています。

【今後の方向性】

本事業は、産官学金労言が連携を図り、村民参画のもと役場周辺エリアにおいて生活利便施設やにぎわい施設の集約、防災拠点としての庁舎機能の強化、子育て支援機能や高齢者支援機能の充実、公共交通のネットワークの形成を実現するため「生涯安心して暮らせる拠点づくりプロジェクト計画」の策定を実施しました。

現在、この計画に基づき「にぎわい、元気を創出する拠点」から整備を進めており、地方創生拠点整備交付金を活用して産地直売所を建設しております（平成30年3月完成予定）。

この産地直売所は、地域住民の主体的な取り組みや新しい取り組みを促すきっかけとなるような、活動の場となる施設、村外からの来訪者との交流や世代間交流、住民交流など人との触れあいを楽しむことができる施設を目指します。

今後は、財源等を検討しながら計画に沿って段階的に整備を進めるとともに、産官学金労言の連携や住民参画によりソフト事業等の展開を強化していきたいと考えています。

V 産業サポート白河を核としたローカルイノベーション創造事業

1. 事業概要

白河市、矢吹町、泉崎村、西郷村の広域連携事業として、一般社団法人産業サポート白河を活用し企業に対する支援強化や地域の強みを活かした競争力強化に繋がる各種事業及び実施体制整備を行ないました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
県南地域の製造品出荷額	57 億円増/年	57 億円増/年	100%
県南地域の就業者数	172 人増/年	172 人増/年	100%
海外企業との商談件数	－ 件	1 件	100%

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
7	6	3	0	1

4. 有識者からの意見

- 県南地域で取り組む事業は良いと考えます。
- 「産業サポートセンター白河」の取り組みは、企業はもとより働く人のモチベーションUPに繋がるものと思われる。積極的な広報活動が必要である。
- 優良企業が多く雇用確保（採用・定着）にむけた協議もできるとよいと感じます。
- 実績で目標を達成しているので、今後も実施を要望します。
- さらに企業への情報を頂きたいです。企業出展ブース数が限られていたり、来場者数が少ない事業も中にはあると見受けられるので。
- 目標は達したが、西郷村にどれだけの効果があったのか疑問。広域はわかりづらい。
- 当年度目標値と実績値が一致しているのは偶然でしょうか。事業の実績と成果を示す KPI として、データベースの充実度やマッチングの成約件数とかいった指標があると評価しやすいのではないのでしょうか。
- イノベーションというには、まだまだ目に見えてこないのが現状。これも各企業より人選していただき、自社アピールと共に今後の当村のあるべき姿を模索の必要有り。これこそ、事業 No. 3 と重複してよい。

【今後の方向性】

本事業は、地域資源や地域産業の強みを活かした「ものづくりの高度化」や「海外展開」など、競争力強化に繋がる各種事業や実施体制整備について、産業サポート白河による支援を強化するもので、「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標“にしごうで働き安心して生活できる村をつくる”に関連する事業として実施いたしました。

4市町村で広域的に取り組むことにより、産業サポート白河に配置された企業コーディネーターはより多種多様な企業間連携に取組み地域間競争力の強化が期待できる。また、製造業を中心に企業PRや人材育成、更なる企業経営改善支援など行う体制の強化が図れた点などを評価し、継続的な支援が必要であるため事業を継続いたします。

VI 企業間お見合い事業

1. 事業概要

地域における少子化対策の強化を図ることを目的に結婚を応援する企業・団体の代表者で構成する「西郷村新たな出会いの場創出事業実行委員会」を設置し、企業間の独身従業員同士の出会いのきっかけづくりを支援する「にしごう企業間縁結びネットワーク」を構築しました。

2. KPI（重要業績評価指標）の達成状況

指標名	目標	実績	達成率
結婚セミナー参加人数	100人	38人	38%
にしごう企業間縁結びネットワークによるカップル成立数	5組	0組	0%

3. 有識者からの評価

A 非常に効果的 であった	B 相当程度効果 があった	C 効果があった	D 効果がなかった	評価不能
0	3	1 2	2	0

4. 有識者からの意見

- すぐに実績があがる事業ではないと思うので、継続した取り組みをお願いします。
- 少子化対策になると思うので、このような事業がもっと増えてほしいと思いました。消防団員も独身の人が多いです。男女が出会えるイベント等、増やしてほしいです。
- カップル成立数は（その後）32組と報告されており、それなりの成果は期待できるように感じます。「縁結びネットワーク」の活動内容を紹介してください。
- 以前から近隣の市町村で行っていた事業であるが、良い結果は出ていない。本事業も参加者の中でカップルが出来ても、果たしてゴールまで行っているのか？ 出会い事業終了後に相談に乗ってくれる人をおいてはどうでしょう。大変かも知れませんが、やる以上はそのくらいまで面倒みましよう。
- やらないよりはやったほうが良い。農業体験、自然観察会（ウォーキング森の中散策）などイベントを通して若い人が集まる工夫が必要。食べる・飲むなどではなく、食材は西郷村のものを使って一緒につくる。食べる。おいしい酒の試飲会など。
- 更なる努力が必要ではないか？
- ネットワークの構築は評価出来るもまだ成果が見えない。難題ではあるが少子化対策の一環として更なる推進が必要である。広域的に取り組む必要もあるかも。そして魅力のある西郷村への移住を推進する。

- 継続することで、徐々に効果が出ると思われる。(取組内容の見直しも検討してみてもいいでしょうか)
- こういった事業に踏み出せたのは、大きな一歩だと思います。実質、事業後に短期的にしか経過を追えない点や、本当にこういった場を求めている人達への声かけ等は、見直す必要があると思います。
- 行政では、なかなか進めるのが難しい分野だが、多彩な取組を期待している。
- 個人的、企業間でなく村（行政）中心でやっていただければよいなあとと思った。(我が息子を参加させたい。)
- 課題がある事業だと思います。
- 同種のイベントが多く開催されておりますので、事業効果をあげることが難しいと感じます。
- 婚活については個人の機微に触れることも多く、慎重に対応すべき問題と考えます。また参加する人の中には、人集めや冷やかしの半分の人もいると聞きます。
- 当村は自然豊かな村であるので、単発的な取組ではなく2～3泊かけた行事を実施すべし。例えば自然の家などをベースにして、ハイキング・登山・歴史探訪等、春・秋2会くらいのどこからでも参加（独身者のみ）できるイベントなど計画した方がよい。この行事を定着させることが大切か。講師・イベントブース指導者は外部ボランティア団体より協力を願うこと。

【今後の方向性】

本事業は、村内の企業等の独身従業員の結婚支援を行政と企業協働で実施し、地域における少子化対策の強化を図ることを目的として、「西郷村まち・ひと・しごと創生総合戦略」の基本目標“にしごうで出会い安心して産み・育てる村をつくる”に関連する事業として実施いたしました。

「西郷村新たな出会いの場創出事業実行委員会」の設置や「にしごう企業間縁結びネットワーク」の構築により事業推進されましたが、カップル成立に至ることができませんでした。今後は、参加企業・団体の拡大や広域化も視野に入れたネットワークの強化を検討し、事業を継続していきます。